

NEAR News

一つの北東アジア、一つの共同体 NEAR | One Northeast Asia Region, One Community NEAR

2015. 11-12

Vol. 65

第10回実務委員会での記念写真



特別寄稿

特別取材-第10回実務委員会の開催

今月の動静

NEAR活動 | 事務局ニュース | 会員自治体の動静 | 会員自治体の行事日程

企画取材

モンゴルの伝統パズル文化



北東アジア地域自治体連合
The Association of Northeast Asia
Regional Governments

NEAR News

「NEAR News」は会員自治体のニュースを伝え、情報を共有するNEARの公式なメッセンジャーとして創刊されました。NEARの活動状況、会員自治体動静、関連国際動向、各種の寄稿、お知らせなどの内容で定期的に発刊しており、会員自治体及び関連機関に無料配布し、NEARホームページにも掲載されます。「NEAR News」は会員自治体がともに作っていくニュースレターであり、NEARと北東アジア地域に関心を持つ方はどなたでも参加できます。

「NEAR News」に掲載を希望する原稿や斬新なアイデアをお持ちの方はNEAR事務局までご連絡いただくようお願いします。



Vol. 65





北東アジア地域自治体連合とは

北東アジア6カ国(日・中・韓・蒙・露・北朝鮮)78の広域自治体(73会員自治体、5オブザーバー自治体)で構成される北東アジア地域における代表的な地方外交協力体であると同時に、国際的な機構でもあります。

北東アジアの共同繁栄を基本理念とする連合憲章を採択し、経済・人文、教育文化交流、環境、防災、国境地区協力、科学技術、観光、海洋漁業、鉱物資源開発・調整、エネルギー・気候変動、女性・児童、生命・医療産業、農業などの様々な分野で幅広い交流・協力プログラムを展開してまいりました。

欧州最大の地方政府協力機構であるAER(欧州地域会議)、R-20(気候行動地域)など国際的な機構との交流を活性化し、パートナーシップの締結、共同事業の推進など、北東アジアを越えて、世界中と繋がる国際協力ネットワーク構築の先頭に立っています。

NEARの門戸は開かれています。

北東アジア地域に位置し、連合の設立趣旨に賛同する広域自治体は、連合の総会の承認を経て参加することができます。



北東アジア地域自治体連合
The Association of Northeast Asia
Regional Governments

特別寄稿



第10回実務委員会の開催

NEAR第10回実務委員会が2015年10月13日から16日まで、議長団体であるロシア・イルクーツク州で開催された。今回の会議には、中国4団体、日本3団体、韓国7団体、モンゴル7団体、ロシア2団体、中国オブザーバー1団体など、約100人が参加した。

初日の開幕式では、議長団体であるイルクーツク州知事の歓迎の挨拶、NEAR事務総長の祝辞、イルクーツク駐在中国、韓国、モンゴル総領事が祝辞の言葉を送った。それ以外も、会員自治体からの代表発表、NEAR懸案の議題発表(会費制の導入、憲章改定案、分科委員会の活性化方案など)及び討議が行われた。二日目は、現地視察を行った。

連合の主要活動報告及びNEAR事務局の活動報告

第10代議長団体である韓国・全羅南道から、2014年度に開催した第10回総会の結果を報告した。第10回総会では、連合新規会員自治体の加入と連合憲章の改定、次期議長団体の選定、NEAR会費制の導入、分科委員会の効率的な運営方案、NEAR事務総長杯のど自慢大会の議決事項及び8分科委員会からの活動報告が行われた。

これに引き続き、NEAR事務局の活動報告は、NEAR発展方案の提案として会員自治体間の交流協力及び新規会員自治体の加入推進、現在開催運営が振るわない分科委員会の活性化推進計画、国際機構との協力ネットワーク構築、NEAR国際フォーラム開催広報、NEAR年次報告書及び広報映像などの制作と配布、会員自治体の派遣職員運営及び勤務環境改善、会員自治体の主要関心事業を積極的に発掘、2015年予算現況報告など、会員自治体からの積極的な関心と参加をお願いした。



分科委員会の活動報告

NEARの分科委員会は全部で14あり、その中で直近の2～3年間活動した分科委員会は8つある。その中、実務委員会で発表した6分科委員会の活動報告の内容は次のとおり。

①海洋・漁業分科委員会(中国・山東省)は、海洋経済の金融支援、海



洋科学技術研究など専門家の主題講演を通じて多様な意見を聞ける場を作ったという評価を得た。また、2015年10月に開催する海洋・漁業分科委員会を広報した。②環境分科委員会(日本・富山県)は、環境分科委員会の漂着物アート政策及び環境ポスター展示会について報告した。③防災分科委員会(日本・兵庫県)は、国際防災機関との意見交換会等、参加者の防災に対する理解度を深めた。④教育・文化交流分科委員会(日本・島根県)は学生を対象にした「多文化理解」という主題で、ホームステイ及び日本文化体験等、多様なプログラムを通じて「友情ネットワーク」を構築した。⑤農業分科委員会(韓国・全羅南道)は、韓国の農業技術を共有し、参加者から肯定的な好評を得た。⑥経済・人文交流分科委員会(韓国・慶尚北道)は今年8月に開催した第11回経済・人文交流分科委員会の「北東アジア経済物流の活性化」という主題で活動した内容を報告した。

会員自治体の代表発表

島根県の発表は、NEAR問題点として「会議の参加率低下」、「会員自治体の承認無しで実施される事業」、「不透明な会計」、「高額費用のかかる行事開催」を提示した。これらを改善するため、「会議が開催される一ヶ月前に会員自治体に事前通報」を行い行事参加率を高めることと、「文書を通じて事業計画を承認」が得られるようシステム構築が必要だと述べた。また、事業計画を通じて「予算・決算の承認、監査」を導入し、予算制度の透明性と信頼性を確保すべきだと述べた。

韓国・仁川広域市は仁川広域市で開催された国際行事について、京畿道は科学技術政策の現況について広報した。モンゴル・フブスゴル県は、フブスゴル県の観光現況を紹介した。最後にロシア・イルクーツク州は、投資誘致の説明として観光レジャー形態の経済特区支援対策を広報した。





第10回NEAR実務委員会の合意文

実務委員会の議題は、第12回NEAR総会開催地の誘致申請、連合憲章の改定、分科委員会の運営実態報告及び改善方案について論議、会費制運営規程(案)の提案である。議題に関する討論が行われ、合意文を作成し、結果を発表した。合意文の内容は次のとおり。

1. 2018年総会誘致申請

中華人民共和国・湖南省から2018年第12回NEAR総会の誘致申請があり、これについて参加会員自治体間で討議した結果、湖南省で開催することに合意を得た。これより、2016年第11回総会に上程し議決することとした。

2. 連合憲章の改定提案

NEAR事務局は、連合を拡大するため、連合憲章第4条の1(準会員範囲)を新設し、第6条(総会の構成及び運営)で「会員自治体の代表」から「会員自治体の長」に修正し、第9条(議事決定)に関する一部の条項を「在籍会員の過半数の出席と出席会員の3分の2以上の賛成により議決する」から「在籍会員の過半数の出席と出席会員の過半数の賛成により議決する」に改定することを提案し、一部会員自治体から「準会員制」と「議決定足数」などに関して他の意見もあった。今後、会員自治体の意見を反映し、2016年第11回総会に上程し議決することとした。

3. 分科委員会の運営実態報告及び改善方案について論議

事務局は、連合の14分科委員会のコーディネイト自治体を対象に「運営実態」を調査し、その結果を報告し分科委員会の運営に関する改善方案を提案した。特に、長期間開催されていない分科

委員会については、該当する団体の意見を聞いた上で、統合、共同開催、地位移譲又は廃止などの方案を事務局で準備し改善して行くこととした。

4. NEAR会費運営規程(案)提案

2014年第10回全羅南道総会で提案された「会費制導入」提案の後続措置として会費制運営の透明性と信頼性確保のため、NEAR事務局でNEAR会費制運営規程(案)を整え、その運営規程(案)を会員自治体を対象に実施した「意見調査結果」も発表した。今回準備した会費制規程(案)は会費制導入案と共に会員自治体の意見を反映し、2016年第11回総会に上程し、議決することとした。

現地視察

当行事終了後、実務委員会の参加者達は、イルクーツク州のタリツィ(Taltsy)民族博物館、リストヴァンカ、パイカル湖、イルクーツク市内などを視察しながら、ロシア民族文化とシベリアの自然環境を体験する時間を過ごした。



NEAR活動

分科委員会の活動報告：経済・人文交流分科委員会 (韓国・慶尚北道)

第11回経済・人文交流分科委員会が、8月26日から28日までの3日間、韓国・慶尚北道・慶州市で開催された。

中国4団体、日本2団体、韓国6団体、モンゴル8団体、ロシア2団体の計5ヶ国22団体63人が参加し、「北東アジア経済物流交流活性化」という主題で進行された。

主題演説は啓明大学校ハ・ヨンソク教授が、特別講演は対外経済政策研究院のイム・ホヨル本部長が行った。参加団体の事例発表として、中国、日本、モンゴル、ロシア、韓国でそれぞれの地域経済活性化について発表した。その後、参加者は慶尚北道・慶州市で開催している「シルクロード2015」を訪問し、シルクロード国家間文化と多様なコンテンツに参加した。



分科委員会の活動報告：農業文化委員会の開催 (韓国・全羅南道)

第2回農業分科委員会が「持続可能な環境にやさしい農業実践方案」という主題で、10月20日から23日まで、韓国・全羅南道霊岩郡で開催された。今年で2回目を迎える農業分科委員会は、5ヶ国17団体約60名が参加した。

国立農業科学院キム・ソクチョル有機農業課長の「韓国の有機農業研究と技術体系」という基調演説を皮切りに、全羅南道農業政策課長から「高所得生命農業育成計画」について発表が行われた。その後、環境配慮型農業実践方案における研究及び各会員自治体からの事例発表が行われた。特に、農業分野に関心が高いモンゴル会員自治体からの参加が多く、優秀事例のベンチマーキングのため努力を注いだ。

次の日、現地視察時には米穀総合処理場(RPC)とパブリカ農場などを見学し、現在開催中である「国際農業博覧会」を訪問、韓国農業技術及び農業関連展示館を視察した。

分科委員会の活動報告：海洋・漁業分科委員会の開催(中国・山東省)



「海洋・漁業分科委員会」が2015年10月28日から30日まで、山東省副省長、NEAR事務総長、在青島日本国総領事、NEAR会員自治体の代表など250人が参加し、「北東アジア漁業経済貿易協力首脳会議及び中国ナマコ産業高位級フォーラム」という名称で、中国・山東省威海市で開催された。

分科委員会では、中国、韓国、モンゴル会員自治体から海洋漁業関連政策の説明と漁業関連企業から事例発表があった。その後、山東省海洋食品展示館とナマコ養殖場などを視察した。

NEAR国際フォーラムの開催(11月18日～20日)

NEAR国際フォーラムが11月18日から20日まで、韓国・ソウル・ミレニアムヒルトンホテルで開催される。NEAR国際フォーラムは、北東アジア地域が直面している様々な問題の解決と地方政府レベルでの共同対応策を整えるため、2007年から開催している。今年で7回目を迎える。

特に、今回のフォーラムでは、「北東アジア地域災害安全分野」を主題に、NEAR会員自治体の代表はもちろん、国内外の地方政府の災害・安全分野担当者と関連分野の専門家を招待し、中身のある論議と共に情報共有の場を設けた。

セッション別主題

- 1セッション：災害と防災(韓国、日本発表)
- 2セッション：経済と災害(中国、モンゴル発表)
- 3セッション：災害と協力(ロシア、韓国発表)

事務局ニュース

1. 第10回実務委員会及び分科委員会の支援

第10回実務委員会(ロシア・イルクーツク州)、8月に開催した「経済・人文交流分科委員会(韓国・慶尚北道)」、10月に開催した「農業分科委員会(韓国・全羅南道)」と「海洋・漁業分科委員会(中国・山東省)」で、全哉垣NEAR事務総長は祝辞を通じて会員自治体間の実質的な交流が行われるよう激励した。また、NEARの各国専門委員は、会員自治体にそれぞれの行事広報、通訳及びマスコミインタビューを支援し、実務委員会と分科委員会を成功裏に終えた。



忠清北道発展研究院で特別講演を実施

2. 青年インターン交流事業推進

NEAR・トゥヴァ国立大学校・ 啓明大学校との3者間業務協約式の締結

8月18日(火)、北東アジア地域自治体連合(以下、NEAR)とロシア・トゥヴァ国立大学校及び韓国・啓明大学校が相互信頼の下、NEAR青年インターン交流事業推進のため業務協約を締結した。

今回の業務締結を通じて、各機関は青年インターンプログラム運営に対する共同協力とその他相互発展と友好増進に関する事項等について協議し、地域青年の雇用創出に寄与するものと期待されている。



全哉垣NEAR事務総長は、会員自治体である忠清北道からの招待により、8月26日(水)忠清北道発展研究院で「中国西部地域拠点西安と忠清北道の進出戦略」というテーマで特別講演を実施し、出席者と討論会を持った。

3. NEAR事務総長、その他行事に出席する

「中国人観光の日」の行事に参加

8月8日、慶州ヒルトンホテルで「中国人慶尚北道観光の日」記念式が開催された。この日、記念式には慶尚北道の朱洛榮(ジュ・ナクヨン)副知事、全哉垣(チョン・ジェウオン)NEAR事務総長、閻鳳蘭駐釜山中国総領事、中国人観光客、韓国内居住中国人留学生等、約400人が参加した。

業務協約締結、中国人留学生の慶尚北道観光体験記の発表、テコンドー及びビーボーイ公演など、多様な行事が行われた。慶尚北道は今後、毎年8月8日を「中国人観光の日」に指定し記念式を行うこととした。

中国・吉林省「日中韓地方政府協力会議」に出席

中国・吉林省人民政府の招待により、全哉垣事務総長及び事務局代表団一行は、日中韓地方政府協力会議に出席するため、8月30日から31日まで、吉林省長春を訪問した。全哉垣事務総長は、蔣超良吉林省長との面談、慶尚北道-吉林省友好交流協定書の締結式、歓迎晩餐会等に出席した。二日目に開催された「日中韓地方政府協力会議」ではNEAR紹介と日中韓三国協力案について発表した。



中国陝西省副省長と面談



全哉垣事務総長は、9月11日(金)に中国・陝西省姜鋒(Jiang Feng)副省長一行と面談し、NEARについて紹介すると共に陝西省と姉妹提携を結んでいる韓国・慶尚北道との経済及び文化分野交流増進方案について協議した。

姜副省長は、陝西省・咸陽市市長、書記に歴任し、2015年4月から陝西省の副省長(工業及び文化担当)に就任した。

モンゴルで行われた「北東アジア市長フォーラム」 に出席及び意見交換会に出席

全哉垣事務総長は、ウランバートル市の招待で9月21日から22日まで、モンゴル・ウランバートル市で開催された「北東アジア都市フォーラム」に出席した。北東アジア都市フォーラムは、ウランバートル市とアジア財団で共同主催し、都市グリーン成長という主題で、都市グリーン成長問題、戦略、グリーン生活及び教育、都市清浄及び持続可能なエネルギー、都市交通輸送体系、空気汚染の実態及び対策などについて討議した。

9月21日の午後の日程として、モンゴル外交部接見室でエンフチェンゲル(Enkhsengel)ウランバートル副市長と面談した。エンフチェンゲル(Enkhsengel)副市長は、「NEARは、北東アジア地方政府間の交流と協力のために大きな役割をしており、これからもNEARを通じ他の都市とより多い交流と協力して行く事を望む」と述べた。全哉垣事務総長は、今後もNEARに対する持続的な関心と支持を願い、10月中旬に開催する「実務委員会」と11月中旬に開催する「国際フォーラム」への参加を要請した。

9月22日にモンゴル会員自治体との晚餐意見交換会に出席した。この日、晚餐意見交換会には、コビスベル県のオドゥセル知事、ヘンテ

イ県のカンホイク副知事、ウブスハンガイ県のムンホバヤル副知事が出席した。全哉垣事務総長は、「モンゴル会員自治体のNEARに対する積極的な関心と参加により、大きく成長することができた。しかし、これから改善すべき点も多いので、10月の実務委員会、11月の国際フォーラムにも関心を持っていただきたい。」と述べた。これに対し、オドゥセル知事は、「韓国の自治体と友好交流関係を結ぶことを希望している。公務員研修プログラムに関心がある。」と述べ、ヘンティイ県のカンホイク副知事は「NEARを通じて、観光分野を広めていきたい」と述べた。また、ウブスハンガイ県のムンホバヤル副知事は「韓国医療観光」について関心を表した。



ロシア・イルクーツク州知事との面談



全哉垣事務総長は、ロシア・イルクーツク州で開催した「実務委員会」の出席に併せ、10月13日(火)にレフチェンコ・セルゲイ州知事と面談した。9月に実施された州知事選挙に当選し、新しく就任された事に祝賀の言葉を送り、NEAR議長として今後NEARにおける関心と支援をお願いした。

また、実務委員会の開催に対する惜しみない支援について感謝を表し、来年NEAR創立20周年を迎え、総会の開催と共にNEAR発展方案について論議し、相互積極的に努力し合うこととした。

慶尚北道SW融合クラスター拠点センターの開所式に出席

全哉垣NEAR事務総長は、10月27日(火)に浦項テクノパーク内「慶尚北道SW融合クラスター拠点センター」開所式に出席した。

開所式には、クラスター事業経過及び推進計画発表があり、出席者から歓迎の挨拶と祝辞及び記念写真が行われた。

慶尚北道SW融合クラスターは、「ICBM基盤の地域特化産業SW融合企業育成プラットフォームの構築」を通じた高付加価値化及び持続可能な雇用創出、未来新成長動力を育成するため開所された。



会員自治体の動静

中国-寧夏回族自治区

2015中国-アラブ国家博覧会の開催



中国-アラブ技術移転センターの開所式

2015中国-アラブ国家博覧会が9月10日から13日まで、中国・寧夏回族自治区銀川市で開催された。当博覧会は、「友誼継承、協力深化、共同発展」という趣旨の下、「シルクロード精神発揚と中国-アラブ協力深化」という主題で、高位級フォーラムと専門展示会及び相談会など、一連の行事を通じて中国とアラブ国家及びその他国家・地域間の交流と協力を増進する場となった。

主要行事は、「1・6・4」という枠組みで進行された。「1」は開幕式と主賓国(ヨルダン)関連行事を、「6」は中国-アラブ商工業フォーラム、オンライン・シルクロード・フォーラム、中国-アラブ保健協力フォーラム、中国-アラブ農業高位級セミナー、中国-アラブ観光企業大会、中国-アラブ技術移転及び革新協力大会の6つのフォーラム行事を指す。さらに「4」は、2015オンライン・シルクロード・クラウドコンピューティング技術及び応用展、中国-アラブ・ハイテク技術及び設備展、中国-アラブ現代農業展及び中国(寧夏)園芸博覧会、中国-アラブ

文化芸術展示会など4つの展示行事を指す。

4日間の中国-アラブ博覧会は、中国とアラブ国家が世界の色々な国と地域とで各分野において交流及び協力を増進するためのプラットフォームを設けた。

日本-青森県

日韓交流おまつりへの参加



9月19～20日の二日間、韓国ソウル市シンチョンとCOEXにおいて「日韓交流おまつり2015 in Seoul」が開催されました。日韓の友好親善・文化理解等を目的に開催されるこのおまつりでは、両国の様々な芸能・文化が披露されることから、多くの市民や観光客で賑わう一大イベントとなっています。

2005年に第1回が開催されて以来、本県はほぼ毎年参加していますが、今年は、本県の伝統文化である「津軽三味線」や「津軽民謡」、また、津軽民謡に合わせて踊る「津軽手踊り」を披露するステージを実施した外、済州道と共同で設置するブースにおいて、こけしの絵付

け体験も行いました。

さらに、日本を代表する夏祭りである青森ねぶたと五所川原市の立佞武多も展示して、来場者の皆さんに本県の魅力に存分に触れていただけたものと思います。

このイベントへの参加によって、日本文化の理解促進や観光による両国の交流推進につながるものと考えています。

日本-富山県

2016年G7富山環境大臣会合の開催

2016年主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に先立ち、2016年5月15日から16日に、富山県富山市の「富山国際会議場」において『2016年G7富山環境大臣会合』が開催されることが決定した。

富山県では、「環日本海地域の環境・エネルギー先端県」を目指して、日本初の県内全域でのレジ袋無料配布の廃止や立山の自然保護、「水と緑の森づくり税」による県民総参加の森づくり、小水力発電などの再生可能エネルギーの導入等の先進的な取組みを進めてきた。また、日中韓口の4か国が参加する「北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）」の地域調整部が設置されているほか、2007年に「日中韓三国環境大臣会合」が開催されるなど、国際環境協力にも積極的に取り組んでおり、今回の選定は、その実績が高く評価されたものである。

今後は、環境省とも連携しながら、来年5月の開催に向け、受入れ準備に万全を期すとともに、この会合に参加する国内外の多くの関係者に富山県の先進的な環境施策を強くアピールしたい。



国際会議場とライトレール（全国初の本格的LRT）

韓国-全羅南道

第12回国際農業博覧会の開催

国際農業博覧会が10月15日から11月1日までの18日間、全羅南道・羅州市山浦（サンポ）面の「全羅南道農業技術院」一帯で開催された。

今年で12回目を迎える博覧会は、「自然と人間が共にする生命農業」という主題で、新しく開発された有機栽培など環境配慮型農業技術や

機材のみならず、農産物の付加価値創出に向けた機能性及び加工製品を展示した。また、低炭素グリーン成長産業である農業の無限なる発展可能性について提示し、環境配慮型農産物の安全性と優秀性について広報した。

今回の博覧会は、「五感満足」の体験ができる展示と多様な体験プログラムを準備した。特別行事としてユニークな農産物で造る庭園コンテスト、生活園芸公募展の作品展示、農業及び農村観光写真の展示、盆栽コンテストの作品展示、農産物象徴塔の展示等がある。付帯行事としては、板跳び、柿狩り収穫体験、天然石鯰作り等の体験行事、道立国楽団、ビーボーイ公演、ヨングアン文化芸術団の公演等が行われた。

今回の博覧会を通じて観覧客に農業の大切な価値と発展可能性について広報できる機会となり、農業人と都市人が農業文化の価値を共に共有し共感を得る場となった。



韓国-釜山広域市

第7回釜山クリスマス・ツリー文化祝祭の開催



釜山クリスマス・ツリー文化祝祭が、11月28日から2016年1月3日まで、釜山広域市の光復路一帯で開催する。花火祝祭、海辺の文化祭、映画祭等が行われる春夏と違い、これといった見どころの無い冬に、韓国で初めて2009年に釜山クリスマス・ツリー文化祝祭を開催した。

「全世界に愛の光を」という主題で、生活に苦悩する隣人を助けようという意味と沈滞する釜山都心の商圈を回復させようという意味を持つ祝祭でもある。

今年は、イルミネーション、ストーリーの有るフォトゾーン、文化公演、市民が参加する体験プログラム等があり、多くの観覧客が訪れる事が期待されている。

韓国-仁川広域市

2015世界本の首都「仁川」

仁川広域市は、2015年4月23日から2016年4月22日まで、仁川広域市が持つ潜在的な文化価値を発現できる契機を設け、本に関連する事業を支援しようと努力している。

世界本の首都は、ユネスコが毎年4月23日を「世界図書・著作権デー(World Book and Copyright Day)」に指定し、この日を記念するため、2001年スペイン・マドリードから始まり、毎年5つの大陸(アフリカ/アラブ/アジア・太平洋/欧州・北アメリカ/ラテンアメリカ・カリブ海)を分け、世界本の首都を選定している。そして、今年韓国・仁川広域市が選定され、「皆のための本、本による一つの世界」というスローガンで多様な事業を推進している。

2015年に重点的に行われる主要行事は次のとおり(対象：2015年10月以後の行事)。

行事名	行事内容	備考
2015韓国内図書館大会	日程：10月21日～10月23日、松島コンベンシア読書振興セミナー、図書館育成ワークショップなど	
韓国と仁川の記録文化展	日程：10月30日～11月29日、仁川市立博物館高麗及び朝鮮、開港期など記録文化を展示	
第1回仁川国際児童教育図書展	日程：11月11日～11月15日、松島コンベンシア30ヶ国350社400ブースが参加	
仁川市統合電子図書館構築	日程：2016年1月～4月、仁川市内6つの図書館統合図書検索及び貸出サービス実施	



ロシア-アルタイ地方

ロシア・アルタイ地方、江原道と友好交流を推進する

韓国・江原道グローバル遠征隊が、8月10日から13日まで4日間、アルタイ地方を訪問した。アルタイ地方に、8月10日から13日までの4日間、韓国・江原道グローバル遠征隊が訪問した。アルタイ地方ビタリースネサリ副知事は、江原道グローバル遠征隊と「アルタイ地方と江原道間の経済貿易、科学技術、文化協力分野」に関する友好交流協定締結を実現化させるため論議した。

訪問期間中に江原道グローバル遠征隊は、アルタイ地方の乳製品加工工場、ビタミン木の加工工場、鹿茸健康補助食品の製造工場を訪問し、鹿茸の採取・密封・保管過程等を見学した。

また、アルタイ地方ビジネスセンターで、江原道の経済潜在力に関するプレゼンテーションと参加した江原道企業とアルタイ地方企業との「企業・投資説明会」が行われた。説明会に参加したアルタイ地方企業の中には、天然原料から抽出した食品生産企業の役員もいた。また、アルタイ食品博覧会に、アルタイ地方はハチミツ、鹿茸、薬草茶、バルサム等を展示し、江原道からは乳製品、食品、化粧品、スポーツ用品等を展示した。

今後、アルタイ地方は有機農業製品と天然原料で作られた薬草、ハチミツ、健康補助食品等を江原道に供給できるよう協力する事にした。また、鹿茸製品の生産を両地域で共にできる事業についても検討している。



November

2015. 11

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
1	2	3	4	5	6	7
			- 自治体 ロシア イルクーツク州 - 行事: 国際チャンパー・オルガン(Chamber Organ)音楽フェスティバル「宇宙のサウンド」 - 期間: 11月4日 - 場所: イルクーツク州 - 連絡先: イルクーツク州政府文化古文書部 T.+7-3952-20-30-55 Email: cultura@mail.ru			
8	9	10	11	12	13	14
		- 自治体 ロシア サハ共和国 - 行事 第5回「通信、IT技術、保安」博覧会 - 期間: 11月 - 場所: イルクーツク州 - 連絡先 サハ共和国道路交通部	- 自治体 ロシア サハ共和国 - 行事 「サハ・プロムエキスポ 2015: 鉱業、石油、ガス、採取及び生産」博覧会 - 期間: 11月 - 場所: ヤクーツク市 - 連絡先 サハ共和国住宅維持保守・エネルギー部		- 自治体: 韓国 済州特別自治道 - 行事 Smart Grid Day行事 - 期間: 11月 - 場所: 済州道一帯 - 連絡先 済州特別自治道エネルギー産業課 +82-64-710-4413	
15	16	17	18	19	20	21
				- 自治体 ロシアイルクーツク州 - 行事: 第2回国際バイカルクラスターフォーラム「クラステラ」(ベンチャー博覧会) - 期間: 11月19日~11月21日 - 場所: イルクーツク州 - 連絡先 イルクーツク州政府経済発展部		
22	23	24	25	26	27	28
		- 自治体: ロシア クラスノヤルスク地方 - 行事 シベリア電力フォーラム - 期間: 11月24日~11月27日 - 場所: クラスノヤルスク市 - 連絡先 www.krasfair.ru T.+7-391-22-88-611	- 自治体 韓国 大邱広域市 - 行事 第10回国際部品素材産業展 - 期間: 11月25日~11月28日 - 場所: 大邱EXCO - 連絡先 国際部品素材産業展事務局 T.+82-53-384-7244	- 自治体 韓国 大邱広域市 - 行事: 2015大邱国際機械産業大展/第16回大邱国際自動化機器展 - 期間: 11月25日~11月28日 - 場所: 大邱EXCO - 連絡先 国際部品素材産業展事務局 T.+82-53-601-5065		- 自治体 韓国 釜山広域市 - 行事 第7回釜山クリスマス・ツリー文化祭 - 期間: 11月28日~2016年1月3日 - 場所: 光復路一帯 - 連絡先 釜山広域市庁文化芸術課 T.+82-51-888-5051
29	30		- 自治体: ロシア カムチャッカ地方 - 行事 エリゾヴォスキ地域観光商品博覧会「冬2015」 - 期間: 12月 - 場所: エリゾヴォ市 - 連絡先: エリゾヴォスキ地域経済発展局 www.elizovomr.ru			

モンゴルの伝統パズル文化

ヒシグ・ザルガルNEARモンゴル専門委員

モンゴル民族遊びー「組み合わせパズル」おもちゃ

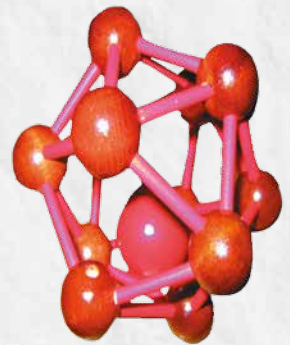
モンゴルには「人を知るにはその人の友人を、その子供を知るには彼の遊び道具（おもちゃ）を見よ」という諺がある。子供が遊びを通じて、問題解決力、創意的な構造把握力、数学的推論力、空間知覚力、集中力、暗記力、協調性、忍耐力などを身につける。まさに遊びから子供の未来を見ることができるからだ。

モンゴルには昔から受け継がれた15種3,000余りの遊びがあり、現在積極的に遊ばれているものは約150種類ある。代表的な遊びとして羊の踝(くるぶし)の骨で遊ぶ「シャガイ(Shagai)」、モンゴル式チェス「シャタル(Shatar)」、ドミノの一種である「ホロル(Khorol)」、木材や動物の骨、鉄などで作られたパズルと双六盤がある。その中でも、知性を試す「結び目パズル」について紹介する。

パズルは、一般的な形態の「幾何学的パズル」、芸術的な面を備えた「古典的パズル」の二つに分類される。

モンゴルのパズルは、紙や木で作られる、他の国のパズルとは違って木、金、銀、鉄、宝石、動物の骨など多様な材料で古典的なデザインという差別化した特徴を持つ。

モンゴル人は、子供の教育にこのパズルを用いる事が多く、特に子供の年齢に合わせた多様なパズルを作ってきた。パズルで遊ぶ年齢層に従い、子供、ジュニア、成人、大会用などに分類される。一般的に、子供用パズルが簡単だと考えがちだが、成人向けパズルなみのレベルの高いものもある。その理由として、子供の思考力や記憶力は大人より優れているという研究結果もある。



レベルの高い鉄と木材パズル。
ウランバートル市記念品店の需要調査によると、
「パズル」が一番多く売られているそうだ。



モンゴルのゲル(テント)をモチーフしたパズル。パズルの始まりは「遊牧業」から発生した。モンゴル人は、移動式テントからベット、食卓、椅子、棚なども自由自在に折りたためるよう作っている。



国際知能博物館に展示されている「外国のおもちゃ」を験しているモンゴルの子供



パズル式の銀の指輪

パズル天国-モンゴル国際知能博物館

国際知能博物館(Intellectual Museum)には、モンゴルのパズル作家であり収集家であるトゥメンウルジ(Tumenulzi)氏が一生をかけて集めたモンゴルの昔のパズルとチェス、そして彼が創作した数多くのパズルと海外から収集した多様なパズルとおもちゃなど、全部で130ヶ国1万1千個の科学的展示品が展示されている。物理的な慣性、錯視効果、遠心力、重力など物理的法則が適用されたパズルもあり、世界的に有名な建築物であるエッフェル塔、自由の女神、チェスをモチーフにしたパズルから世界各国1000余りの人形、そして直接魔術を披露し、その原理を説明するのに使われる30個の魔術道具もある。

パズルの中でも一番レベルの高いパズルは、モンゴルの首都ウランバートル市の守護神である「亀」の形をモチーフにした5kgの純銀で出来たもので、それがあまりにも難しく挑戦者たちの間では「悪魔のパズル」と呼ばれている。このパズルを10分以内に崩して再度組み立てた外国人には「10万USドル」の賞金が支払われるが、未だに誰も成功していない。この博物館の魅力は、観客が展示作品を直接体験することだ。現在、世界各国から「国際知能博物館」を取材しに来ると言う。

もし、モンゴルを訪問するのなら、「国際知能博物館」に訪問する事を勧める。色々な分野の科学原理をパズルなどのおもちゃを通じて見せる博物館だけあり、子供達と一緒に観覧するか、又は観覧後に博物館内にあるパズル記念品店で「知能発達用パズル」を購入することは子供に良いお土産になるだろう。



2つのピースが交差している木造おもちゃ。見た目は簡単そうだが、そのまま分離しようとしてもできない。遠心力の原理を基に作られたため、パズルを一周させれば解体することができる。これを通じて、子供は遠心力という「物理法則」を学ぶことができる。



The Association of Northeast Asia Regional Governments



北東アジア地域自治体連合

The Association of Northeast Asia Regional Governments

(37668)慶尚北道浦項市南区芝谷路394 浦項 テクノパーク本部棟3階

T. +82-54-223-2317 F. +82-54-223-2309 E-mail near@neargov.org Homepage www.neargov.org